

繰り返す敗戦

太平洋戦争の敗戦からすでに六十六年、三百万人の命の上に、指導者は「国家政策の失敗」を繰り返しています。これは国民とリーダーの社会システム、戦後民主主義に問題があるのでしょうか言えないではないか。

まず、すべき第一番は世襲利権化した国会議員の大

胆削減です。

そして、自主憲法に一刻も早く改正しなければならぬ。護憲を語る人たちは我が国指導者の、

①機能不全

②党組織・省益優先のセクシヨナリズム

③危機管理意識の不足

が「思いつき」の総理を生み出す要因だとは考えないのでしようか。

結果、幾重にも敗戦を繰り返すのです。

この戦後憲法の基本的な脆弱性に由来する現実を否定できるのでしょうか。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇

北前船

復元された北前船「みちのく丸」が金沢港に6日寄港。8月7日、乗船見学をしました。外から見た感じは意外と小さい、帆柱は高さ28メートルの一本杉に圧倒される木造船。板一枚々は圧倒的

な厚さ、海のログハウス？

停泊していてもうねりでゆっくりローリング、船の側縁は低く海が荒れれば転落確実、莫大な富を交易で創出した船乗りの覚悟がしのばれる。

日本海海運の主力となった商船。大阪を起点として、日本海沿岸の湊に寄港しながら蝦夷地（北海道）まで年一往復で結び、各地で物



資を売り買いして利益をあげた。米や海産物などの食料や肥料、日用品等なんでも運び、経済のみならず文化交流に重要な役割を果たした。最も活躍した時代は江戸時代後期から明治40年代で、石川県でも加賀市の橋立など北前船が寄港した地の神社などに多数の船絵馬やゆかりの品が残り、当時の繁栄を今に伝えている。しかし現存する船は一隻もない。

かけとなることを願い、財団法人みちのく北方漁船博物館財団が建造した。

- ・建造期間：平成16年7月～平成17年10月（※冬期間等の休業期間を除く）約9か月
- ・主要目：全長32m、全幅8.5m、深さ3m、帆柱までの高さ28m、千石積（重量トン）150トン
- ・おもな使用木材：スギ（青森県十和田産）、米松（アメリカオレゴン州）ほか
- ・船大工：総勢16名、棟梁：新沼留之進氏

孔子は、「完成された人間とは」と問われ、「目の前に利益がぶら下がっているでも義を踏み外さない」と、条件を挙げています。古代エジプト文明は、なぜ三千年にも渡り繁栄を続けたのでしょうか、梅原猛氏は、「自然崇拜、とくに太陽崇拜に重要なヒントが隠されているのではないかと

先の400年の近代資本主義の終焉を迎えているのではないかと。内部留保に走り大企業に見る、人間を数字として扱い切り捨てる新自由主義…。

利のものは義

うか、梅原猛氏は、「自然崇拜、とくに太陽崇拜に重要なヒントが隠されているのではないかと

天才的な？詐欺師達は、日本の原発のツケを国民の税金でやらせるのと同じ手法です。これは金融資本主義、利益優

アリストテレスは「すべての商業は罪悪である」と言っていたそうです。商行為を詐欺と見なす考えは、最近まで連綿として続いていた…。



(有)西川経営オフィスサービス

中村会計

事務所便り

2011年8月24日（水）NO. 221

地域から明るい未来を作ろう